

ウィハン弦楽四重奏団 with 岡直美

WIHAN OKA

Quartet with Naomi



2026年

10月25日(日) 開演 14:00 開場 13:30 福岡FFGホール

モーツァルト:弦楽四重奏曲 第15番 ニ短調 K.421
Mozart: String Quartet No.15 in D minor, K.421

フォーレ:ピアノ五重奏曲 第1番 ニ短調 作品89
Fauré: Piano Quintet No.1 in D minor, op.89

ドヴォルザーク:ピアノ五重奏曲 第1番 イ長調 作品5
Dvorak: Piano Quintet In A Major, Op.5

※当日のプログラム順ではありません。

主催: 国際芸術連盟

後援:  Embassy of the Czech Republic
in Tokyo
駐日チェコ共和国大使館

 チェコセンター
東京

日本チェコ協会

一般社団法人
全日本ピアノ指導者協会 (ピティナ)

福岡市・(公財)福岡市文化芸術振興財団

前売り 4500円 | 学生 3500円

当日 | 5000円 | 学生 4000円 | (税込・全席自由)

JILAチケットセンター
TEL.03-3356-4140
<10-18時(土・日・祝除く)>



チケットぴあ
Pコード: 333-154



カンフェティ
TEL: 0120-240-540
<10-18時(土・日・祝除く)>



岡直美 WEB
ご予約フォーム





ウィハン弦楽四重奏団 Wihan Quartet

レオシュ・チェピツキー Leoš Čepický <1st.Violin>

リボル・カニユカ Libor Kaňka <2nd.Violin>

ヤクブ・チェピツキー Jakub Čepický <Viola>

ミハル・カニユカ Michal Kaňka <Cello>

ウィハン弦楽四重奏団は「弦とアンサンブルの国」といわれるチェコを代表するカルテットのひとつである。「ウィハン」の名は、チェコの歴史的な楽団のボヘミア弦楽四重奏団の創設者で、チェリストでもある「ハヌシュ・ウィハン」の名を冠したものである。メンバーの4人がプラハ芸術アカデミーの学生であった1985年に結成された。結成3年後から世界の名だたるコンクールを次々と制覇、とりわけ1988年の「プラハの春・国際コンクール」に優勝した際には、世界的ヴァイオリニストのY・メニューインからのお墨付きも頂き、以降、全世界を股にかけ、結成以来40年以上にわたり、大活躍を続けている。

この楽団の特徴は何といってもメンバーが固定されていることである。2014年にヴィオラのヤクブ・チェピツキー、2018年にチェロのミハル・カニユカの両氏が、それぞれ創設時の奏者の後任として着任した。40年以上のキャリアの中で人事異動はこれ2回のみ、ヴァイオリン奏者2人は結成当初から現在までその座を張り続けている。この驚くべき一貫性が彼らに対する多くの賛辞の対象となっており、ニューヨーク・タイムズ紙はこの楽団の「固定メンバーによって築かれた信頼関係によるアンサンブル」に注目している。現在のメンバーによる活動も9年目に入り、結成当時のメンバーの時よりもはるかに意欲的な活動を展開している。

レパートリーも実に幅広く、スメタナ、ヤナーチェク、ドヴォルザーク等のお国ものは言わずもがなで、古典派、ロマン派のこのジャンルの代表曲や現代曲にまで深い造詣を示しており、またレコーディングにも積極的で2008年のプラハにおいて、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲全曲演奏会のライブCDとDVDがニルバス・アライアンスより上梓されたことが特筆され、「インターナショナル・レコード・レビュー」は彼らを「今日の世界最高の弦楽四重奏団のひとつ」と絶賛した。

またウィハン・カルテットはロンドンを準本拠地として活躍しているが、当地、イギリスのBBCミュージックマガジン社からは「世界有数の室内楽団」との評価を勝ち取っており、本年（2026年）2月にもロンドンを中心にハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、そしてお国ものにウェバーのクラリネット五重奏曲を加えた演目によるツアーを行った。

ウィハンのメンバー4人は全員相当な親日家であり、1995年の初来日以来、現在まで20回以上の訪日歴があり、昨年（2025年）10月にはわが国でも結成40周年の記念コンサートを行い、大成功を収めた。ここ数年は毎年10月の来日演奏会が半ば定番化しており、本年（2026年）も再訪日が実現する。

しかし今回（2026年）は第2ヴァイオリンのシュルマイスター氏が来日不能になることが確定しており、リボル・カニユカ氏が代役として楽団の一員に加わることとなった。リボル氏はチェコのミハル・カニユカ氏の実兄で、ウィハンと同国、チェコのマルティヌー弦楽四重奏団の第2ヴァイオリン奏者として活躍しており、まさに室内楽はお手の物、という演奏家である。

さらにウィハンの第1ヴァイオリニスト、レオシュ・チェピツキー氏とは完全な同業者ということもあり、無二の盟友というも追い風となって、急遽代役として加わっても、即座に響きに溶け込み、見事なアンサンブルを奏でってくれること、まちがいない。

今回の4人の構成を注視すると、舞台上で両端に配置される第1ヴァイオリンとヴィオラ奏者が親子、そして内側に座る第2ヴァイオリンとチェロ奏者が兄弟、このような団員構成の弦楽四重奏団は世界中見渡しても珍しいはずで、この事象は必ずや阿吽の呼吸によるアンサンブルに相当有利に作用し、これまで以上に熟達した美しい響きを奏で、わが国のファンの期待に違わぬ、すばらしい日本ツアーになること、必至であろう。

<https://wihanquartet.co.uk/>



2024年



2025年



岡 直美 <ピアノ>

4歳より福岡音楽学院にてピアノを学ぶ。福岡女学院高校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。第44回全日本学生音楽コンクール福岡大会高校の部第1位。1993年モスクワ音楽院生との日露交歓コンサートに出演。同年、北ドイツで開催されたコンラート・ハンゼンマスタークラスを受講、修了演奏会に選拔され出演。1995年西日本新人演奏会において福岡音楽文化協会賞受賞。1996年日本演奏連盟主催新人演奏会にて九州交響楽団とラフマニノフピアノ協奏曲第2番を共演。2002年チェコを代表するウィハン弦楽四重奏団と共演、好評を博し来日の度ごとに共演を重ね、2014年にはプラハのリヒテンシュタイン宮殿・マルティヌーホールにて同楽団とCD録音、合わせて、聖ヴァウジネッツ教会にて開催された演奏会に出演。今回の共演は16度目を迎える。

国内外で多数の室内楽セミナーに参加。2016年よりアトリエ木下浄水通り本店別館チャペルにて毎月開催している室内楽コンサートは100回を迎える等、福岡を中心に多岐にわたる演奏活動を展開中。タンゴを中心に演奏するトリオ タンゴ3姉妹+においては『ピアソラ国際音楽コンクール トラーニ2021』にて最優秀賞を受賞。

これまでに故末永博子、故内山信、白川奈緒子、故林秀光、安井耕一の各氏に師事。福岡音楽学院院長。



会場案内

<FFGホール>

福岡市中央区2-13-1 ☎092-723-2805

主催：国際芸術連盟

〒160-0022 新宿区新宿2-15-2 岩本和裁ビル 2階
03-3356-4033 music@jila.co.jp